

大阪市立大学 工学部 建築学科
大学院 工学研究科 都市系専攻 計画領域

准教授 徳尾野 徹 博士 (工学)
tokuono@arch.eng.osaka-cu.(ac.jp)

Assoc.Prof. Dr. Tetsu Tokuono



研究テーマ名：大阪を中心とした成熟社会における住まいの計画に関する研究

キーワード：大阪、長屋、文化住宅、ミニ戸建、セルフリノベーション、ストック活用、低層高密度都市住宅、住工混在地域、コンパクトシティ

高校生への一言：「建築(学)」は実践的にも学問的にもとても面白い分野です(建築学科の先生はそれに取りつかれた人たちです)。絵が上手・下手、関係ありません。手先が器用・不器用、関係ありません。数学が得て・不得手、余り関係ありません(最低限入試をクリアする必要あり)。「建築(学)」は間口が広いので、やる気さえあれば、様々なアプローチが可能です。

大学での担当科目：建築計画各論Ⅱ、現代建築フォーラム、建築基礎製図、建築設計演習Ⅰ、卒業設計、卒業論文

大学院での担当科目：建築計画特論、建築プログラム演習

所属学会：日本建築学会、日本都市計画学会

1. 研究概要

非成長型社会の要請、地球環境問題への対応、空洞化が進展する都市の再生などを背景に、コンパクトシティが課題となっています。但し、数的な充足だけでなく、都市の活性化に寄与するような質的な側面、「都市にいかに住まうか」が問われています。しかし、多くの都市では地域の文脈を無視して一般性を追求し、それ故に生活・空間ともに無機的で地域から遊離した高層マンションや戸建て住宅群が続々と開発・供給されています。これでいいのだろうか？

一方、『長屋』『文化住宅』『ミニ戸建』、大阪には固有の低層高密度都市型住宅が存在します。「耐震性の不安」「スラムの再生産」等の批判はありますが、現在も多くの住み手が生活する大阪固有の都市型住宅を対象に、①潜在する「型の原理」を解明し、②その原理を適用して、高層マンション等に対するカウンタープランとして、個性や生彩に満ちた都市住宅「大阪モデル」を開発することで、③都心居住の今日的課題を照射し、コンパクトシティの内実化、具体化に寄与することを目指しています。

2. 高校生向けに提供可能な講演テーマの例 (実績も含む)

都市にいかに住まうか・大阪長屋の研究・住宅ストックの活用

